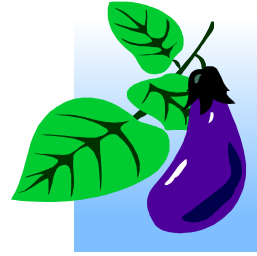


それゆけ！ としよかんだより



2011年9月

第53号

発行所
高野山大学図書館
閲覧室

『書庫に入って図書を手に取り感じてみよう』

文学部教授 室寺 義仁

「アジア仏教史」に「講座大乘仏教」、これらのシリーズから私たち世代は大学生の頃、仏教学分野の新たな学術成果を学びました。それから凡そ四半世紀余りを経て、それぞれ「新アジア仏教史」(全15巻、佼成出版社)と「シリーズ大乘仏教」(全10巻、春秋社)として、前者は昨年春から後者は本年春から、最新の国内外の研究成果を取り込みながら、一般の読者(例えば、大学の教養課程に学ぶ学生諸君)に向けて刊行が始まりました。こうしたシリーズは、学生時代に全巻を買い揃えることはできないと思います。なればこそ、図書館の書庫に入り、一冊一冊を手にとって、諸研究の積み重ねられて来た広がりや深み、そして、編者や執筆者たちの学術的な熱き思いや密やかな自負などを感じ取ってみて下さい。私の恩師である梶山雄一先生の著作集(全8巻、春秋社)も、緻密な索引が添えられ(故人となられた梶山先生による仏教用語の現代語訳への試みが良く分かるように配慮されて)刊行中です。

私は、『新アジア仏教史 03 インドⅢ 仏典からみた仏教世界』の中、第6章「思想の深化」というテーマの執筆を担当しました。次の様な書き出しで始まります。

およそ私たちは、それぞれの家庭や社会の環境の中で、様々な「心得」を習得することによって生きる術を身に纏いつつ日常を積み重ねているものである。実際、あれやこれやを自らの利害損得の欲得にしたがって取捨選択しては、我がものとして取り込み、暫くは、「得心」することもある。そして、その折々で、「心得」を身に付けたつもりで生意気になってみたり、あるいは、「得心」したとの思い込みで心意気が荒くなってしまったりしてしまうこともあろう。とまれ、この多彩な「心」の内実を概念的概念的に捉えようとする時、私たちは一般に「心・情・意」なる漢字に当て思考する。他にも、「精」・「神」、あるいは「精神」をこころと訓読することもある。広く精神活動を指して、こころと呼ぶ時があるからである。あるいは、「懐」の字を当てることもある。古の時間を懐古して術懐して語る時や、あるいは、本懐を談ずる時に、語り談ずる人の心根に、こころを感じる時があるからである。

一方、伝統的な仏教教義の基本では、「情」ではなく「識」をもって、心を捉えようとする。「心・情・意」ではなく、漢訳語の「心・意・識」、すなわち、古典インド語のサンスクリットでチッタ・マナス・ヴィジュニャーナという、ブッダ(紀元前463年～紀元前383年。ただし、約100年余り遡らせる説もある。)が「チッタともマナスともヴィジュニャーナとも呼ばれる」と語ったことに始まる、これら三つの基本語で、こころの内実を分析して行く。例えば、「情」の語で意味される情感・感情に係る心の多彩な働きは、「心」とは別の要素として、「心所」(しんじょ)なる術語を用い、心の一刹那一刹那と必ず連動して働いている心的作用の諸要素として考えて行くことになる。

このように「心」についてあれこれ考えるのも、基本は日本語ですから、まずは、小学館『日本国語大辞典』(第2版2001年)「こころ【心・情・意】」の項に挙げられる各用例を参照した上で書き起こしています。この浩瀚な大辞典もまた、なかなか個人で所有できるものではありません。是非、図書館で調べて見て下さい。知らなかった日本語に出会っては、心湧き立ち、あれやこれやと考え始める切っ掛けとなるはずです。

図書館の蔵書印 (4)

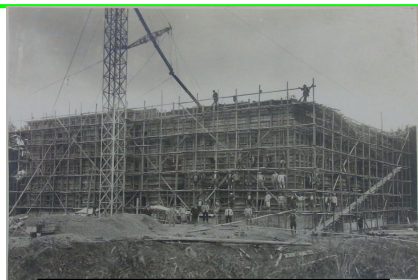
図書館員 木下浩良

先に、明治34年(1901)真言宗の古義各派は連合し、本学は真言宗連合高野大学と改称し、図書館も連合高野大学図書館となったことまで紹介しました。

その後、明治42年(1909)本学は専門学校令の認定校となりますが、大正2年(1913)連合議会において廃校が議決され、宗内の最高学府は連合京都大学(種智院大学の前身)だけとなります。これに対し、高野派は連合からの離脱と、単独での大学経営を決断します。これには、他派も譲歩を余儀なくされ、本学はそのまま存続となります。

大正3年(1914)7月、真言宗連合高野山大学と改称。翌4年(1915)真言宗高野山大学と再々の改称を遂げます。同12年(1923)連合議会において、本学の専任学長設置が承認され、本学の旧制大学昇格運動が始まります。本宗は連合から離脱し、大覚寺・仁和寺・高野山の3派連合の古義真言宗が成立します。本学が本宗立から独立した、旧制大学の高野山大学へと昇格するのが、同15年(1926)のことでした。

掲載の蔵書印は、大正14年(1925)当時のものです。旧制大学昇格以前のものですが、昇格以降も同じ蔵書印を、図書館では使用しています。東洋一と称された現在の図書館ができるのは、それより3年後のことです。内外ともに活気溢れる一時代を、この印影は物語っています。



建設途中の本学図書館

『写真でみる本学図書館建設』②

昭和2年(1927)1月に図書館建設の認可を受け、同年4月に起工しました。建設費予算は25万円。

高野山ではじめての鉄筋コンクリート造りの西洋建築物でした。



蔵書印

図書館通信

図書館文化講座とミニコンサートのお知らせ

平成23年度第3回図書館文化講座

『私の旅と文学』

講師：下西 忠 図書館長

日時：10月6日(木)16:40~17:40

場所：本学本館2階205号教室

平成23年度第2回図書館ミニコンサート

『お箏ミニコンサート』

演奏：桜野 清里 先生(本学講師)

今北 有紗 さん(本学女子寮寮監)

小松 陽彦 さん(本学密教学科3回生)

日時：10月19日(水)17:00~18:00

場所：図書館閲覧室

学生さん、一般の方、どなたでも自由に参加していただけます。参加希望の方は当日直接会場にご参集下さい。お待ちしております♪



発行所

〒648-0280

和歌山県伊都郡高野町高野山385

高野山大学図書館 閲覧室

Tel:0736-56-3835

Fax:0736-56-5590

E-mail service-lib@koyasan-u.ac.jp



(編集後記)

後期授業開始日より、平日の開館時間を30分延長します！是非、ご利用下さい。

(石原)

2011年9月の開館予定表

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
28	29	30	31	1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	1

2011年10月の開館予定表

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
25	26	27	28	29	30	1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31	1	2	3	4	5

	9:00-18:00		13:00-18:00
	13:00-18:30		9:30-16:30
	9:00-18:30		閉館
	9:00-17:00		

切り取り